

笠松新介殿

【笠松文書】

一三七八

就備前三郎腰物之儀、千五百疋到來祝着候。然者諸橋山中百人夫、棟役一圓免除候。并大石町屋敷七ヶ所宛行候。永代可被知行狀如件。

永祿元年

六月四日

義綱 在判

笠松新介殿

(第二通・第三通は諸橋山中のことに係るを以てこれを合叙す。)

三月十三日。能登守護畠山義綱、櫻井宗次郎に、鹿島郡氣多本宮社務職を安堵せしむ。

【能登生國玉比古神社文書】

鹿島郡 一三七九

氣多本宮船木社務職之事、田畠在家等壹所、無相違如先規爲闕所申付候。祭禮修造等之儀、不可有懈怠候。永全可令知行之狀如件。

弘治三年三月十三日

(畠山) 義綱 在判

櫻井宗次郎殿

(氣多本宮は今の鹿島郡所口能登生國玉比古神社なり。)

四月五日。長續連、小林彦右衛門尉に、その籠城の功を賞す。

【北畠遺文】

一三八〇

今度籠城自勘忍、誠神妙ニ候。就其左阿彌居屋敷拾疋足申付候。忠節可爲干要者也。

弘治三年

卯月五日

(長) 續連 在判

小林彦右衛門尉殿

六月三日。能登守護畠山義綱、笠松新介に、鳳至郡櫛比之内を知行せしむ。

【笠松文書】

一三八一

用脚五百疋到來候。悦存候。就夫櫛比之内徳田藏人丞分宛行、永全可令知行狀如件。

弘治三年六月三日

(畠山) 義綱 在判

笠松新介殿

【笠松文書】

一三八二

櫛比徳田藏人丞分、籠城中依申付、重而用脚千疋到來候。就其手前惣出錢役令免除候。永代無違亂宛行所如件。

(弘治三年) 九月朔日

義綱 在判

笠松新介殿

【笠松文書】

一三八三

尙々高上屋敷前五ヶ所之事候也。

敷地之事高上屋敷一圓ニ被宛行候。前五間有之。他之違亂不可有之候者也。

(年不詳) 七月廿日

井彌九 英教 在判
長參 連理 在判

弘治三年

(笠松新介) 新參

(第二通・第三通は笠松新介のことに係るを以て茲に之を合叙す。)

七月廿七日。能登守護畠山義綱等、越中の椎名宮千代に、その被官八代俊盛を援軍として派遣したるを謝す。

【歴代古案】

一三八四

爲加勢八代安藝守渡海、神妙之至悦喜候。爲禮儀差越使僧候。爰元調策之儀不可有由斷候。可被心安候。日限可爲逗留之由雖令申、行半及其沙汰候者如何候間、分別頼入候。次今度相越候兵船共、五三日抑留候。俊盛一圓不令納得候。達而申聞候。同心可令祝着候。委細揚首座申含候。猶遊佐美作守・長九郎左衛門・飯河若狹守可申候。謹言。

(弘治三年) 七月廿七日

(畠山) 義綱 徳山義綱 印判

五七五